

外国語科学習指導案

第4時 児童数 35名

第6学年4組 指導者 黒澤 和樹

T2 湯澤 宏江

1 単元名 Unit5 He is famous. She is great.

2 単元の目標

- ・自分の好きな人物やキャラクターについて、職業や性格を表す簡単な語句を理解するとともに、友達やALTに伝える活動を通して、話すこと聞くことの技能を身につけることができる。(知識・技能)
- ・職業や性格などを言って、人物やキャラクターを伝え合う。(思考・判断・表現)
- ・相手に自分の好きな人物やキャラクターを伝えるために、表現を工夫しようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元観

(1) 単元について

本単元では、これまでの外国語活動で慣れ親しんできた語句や表現を使い、自分の力で質問したり、答えたりすることが出来るようになること、語順を意識して自分や第三者を紹介する文を言ったり書いたりできるようになることを目指している。文構造を理解することで、場面や状況に応じて自分の言いたいことを表現したり、相手の表現していることを理解したりすることができるようになることを考える。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、授業の際、進んで発表することに苦手意識を持つ児童が多い傾向がある。外国語に関するアンケートの結果を見てみると、80%の児童が「外国語の授業に進んで参加している」と答えている一方、56%の児童が「英語で先生や友達とやりとりすることが好き」と答えている。理由として、恥ずかしさや人に自分の意見や行動がどう見えるかを気にしていることが考えられる。自己表現が苦手な児童が多いため、自信を高め意欲的に発話できるよう環境を整えていきたい。

そこで、自分の好きな人物のカードを使い、人物当てかるたをすることにより、発話へのハードルを下げ、児童に楽しく自信をつけてもらいたい。また、単元の最後までシルエットクイズをし、ゴールの姿を示すことにより、単元の最後まで意欲が継続できるようにしたい。

(3) 研究主題との関連

児童が主体的にコミュニケーションを図るためには、相手に対して自分も伝えたいという思いをもつことと、コミュニケーションを図る必然性が必要であると考え。本単元では、自分の好きな人物やキャラクターをALTや友達に伝える活動を設定することで、児童の発話への意欲を高めていく。また、最終のゴールを「自分の好きな人物やキャラクターをALTの先生に分かってもらう」と設定することにより、英語を使ってコミュニケーションを図る必要性が生み出され、児童が語句を調べたり、表現方法を工夫したりと主体的に活動に取り組めるようにしたい。

以上の取組みにより、本校の研究主題である「相手意識をもち主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～英語に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して」に迫りたい。

4 単元計画及び評価計画（総指導時数 6 時間）

聞く…☐ 読む…☐ 話す（やり取り）…☐
話す（発表）…☐ 書く…☐

時	目標（◆）と主な学習内容	評価			
		知	思	態	評価基準【評価方法】
1	◆人を紹介するための言い方を知ろう。 ・担任と ALT のやり取りを聞いて質問に答える。 ・【story】アニメーション映像を通じて単元のトピックを導入する。 ・【Let's Play】キャラクターや人物について紹介の仕方を考える。	聞		☐	記録に残す評価は行わないが、児童の実態を把握するための評価を行い、おおむね満足な状況に至らない児童の支援を行う。（観察）
2	◆好きなものやほしいものなどを伝える言い方を知り、伝えよう。 ・【Let's listen】先生の「好きな人物・キャラクター」について聞き取る。（全体） ・【Let's watch】step1 の表現を確認する。 ・【Let's write】自分の「好きな人物・キャラクター」について紹介の仕方を考える。	聞			先生たちの「好きな人物・キャラクター」について聞き取っている。（観察・振り返りカード）
3	◆人の職業や特徴などを紹介する言い方を知り、伝えよう。 ・【Let's listen】先生の「好きな人物・キャラクター」について聞き取る。（全体） ・【Let's watch】step2 の表現を確認する。 ・【Let's play】自分の「好きな人物・キャラクター」について紹介カードを作る。	☐ ☐			He(she)is～の表現を用いて自分の「好きな人物・キャラクター」について伝え合っている。（観察・振り返りカード）
4 （本時）	◆人の職業や特徴などを紹介しよう。 ・【Let's listen】先生の「好きな人物・キャラクター」について聞き取る。（全体） ・【Let's play】紹介カードを使って、人物当てかるたをする。	☐ ☐			自分の「好きな人物・キャラクター」についての職業や性格などを紹介している。（観察）
5	◆自分の「好きな人物・キャラクター」について友達に紹介しよう。 ・【Let's listen】先生の「好きな人物・キャラクター」について聞き取る。（全体） ・【Let's try】自分の「好きな人物・キャラクター」について友達に紹介する。		☐ ☐		自分の「好きな人物・キャラクター」についての職業や性格などを紹介している。（観察）
6	◆自分の「好きな人物・キャラクター」について ALT 紹介しよう。 ・【Let's listen and read】これまで音声で慣れ親しんだ語句や表現を確認する。 ・【You can do it!】ALT に自分の「好きな人物・キャラクター」を ALT に紹介する。		☐	☐	【思考・判断・表現】 自分の「好きな人物・キャラクター」の紹介について、聞き手に伝わるように工夫して発表している。 【主体的に学習に取り組む態度】 より相手に伝わるようにジェスチャーを用いるなどして表現を工夫している。（観察）

5 本時の指導

(1) 題目 友達と人物（キャラクター）当てクイズをしよう

(2) 本時の目標

- ・ He(She)is～の表現を用いて、人物の職業や性格などについて伝えることができる。（知識・技能）

(3) 授業の観点

- ・ 活動4のクイズを通して児童同士に会話のやり取りをする活動を設定したことは、児童が外国語を主体的に楽しく学ぶ上で効果的だったか。

(4) 本時で慣れ親しませたい言語材料

○I like have/play/want～. Who is this? He(She)is（職業名/性格）

○職業（artist, chef, creator, designer, doctor, journalist, nurse, performer, player）人やものを説明する（creative, funny, gentle）スポーツ（tennis）身の回りのもの（drum）身に着けるもの（shoe）質問する Who is～？

(5) 展開（5／6時間） ◎児童指導上の留意点 ※人権教育上の配慮 ☆研究主題との関連

過程及び児童の活動	学級担任の活動	指導上の留意点
1 シルエットクイズをする。 ・ 泉が丘小の先生の好きなスポーツなどを当てる。	・ 楽しく英語を学習する雰囲気を作る。 ◎積極的に発話できない児童も自分の意志を表示できるように、全員が声を発する機会を設ける。 ・ 前時までに学習した内容について振り返りながら児童とやりとりする。 ・ 新たに出てきた表現方法を確認する。	☆教師を話題にすることで児童の主体的に活動できる雰囲気作りをする。
2 本時のめあてを確認する。 【Small talk】 友達と人物（キャラクター）当てクイズをしよう 【Today's goal】	・ 担任と T2 でシルエットクイズの話題から Small talk をし、児童とやり取りする。 ・ 本時のめあてを知らせる。 ・ 単元計画を再確認し、本時の学習の見通しをもてるようにする。	
3 活動 【Let's try】 ① 教師とクイズをする ② 児童が作成した「好きな人物」のカードを使い、問題を出す側と答える側に分れて人物当てクイズをする。	・ 担任と T2 でデモンストレーションを行い、やり方を確認する。 ・ 児童がやり方を理解しやすくするために使う語句やイラストを掲示する。 ・ クイズのやり取りの中で、言い方が分からなかったものはメモをさせるようにする。	☆ペアで互いに教え合いながらやり取りすることで自信をもてるようにする。
He is an athlete（職業） He is from Shimane（出身） He can play tennis very well（できること） He is famous（特徴など） Who is he?	◎つまづいている児童を支援する。 ※相手が発表したことに対して称賛する態度を忘れないことを活動前に説明し、自己表現がしやすい雰囲気を作る。	・ 中間振り返りをする事でよい点や確認することを全体で共有する。

評価【評価の観点】（評価方法） 人物やキャラクターの職業や性格などを紹介することができる。（知識・技能）〔活動の様子・ワークシート〕 ＜おおむね満足できる状況＞ 友だちと人物やキャラクターの職業や性格などを紹介し、伝え合っている。 ＜十分満足できる状況＞ 友だちと人物やキャラクターの職業や性格などを紹介し、伝え合って、適切な英語で表現している。 ＜おおむね満足できる状況に達していない児童への手立て＞ 英語で表現できるように、個別に表現の仕方を指導する。		
4 友達とのやり取りの中で、困ったことや分からないことを全体で共有し、確認する。 5 本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。 【Reflection】	・ T2 と正しい英語での表現を確認する。 ・ 質問の仕方やそれに対する答え方で分からないことを確認し、単元終末の発表につなげられるようにする。 ・ 振り返りの項目に沿って照らして記入するように助言し、次時への意欲を高められるようにする。 ・ 楽しく英語を学習する雰囲気の中で活動を終えるようにする。	◎小グループを設定し、英語で分からないことや言えなかったことを安心して聞けるようにする。 ※よさを認め合う雰囲気をつくるため、友達のよかった点を発表してもらう。

6年生 「Unit5 He is famous. She is great.」

1. 授業の実践記録

(1) 相手意識をもち主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【児童が「伝えたい」「伝えなくてはいけない」と感じる単元展開の工夫】

児童が主体的にコミュニケーションを図るためには、相手に対して自分も伝えたいという思いをもつことと、コミュニケーションを図る必要性を児童が感じることを重要であると考えた。そこで、本単元では、児童一人一人が自分の興味・関心のある、または思い入れのある人物についてALTに紹介するという課題にすることで、児童が意欲的に課題に取り組み、「伝えてみたい」という思いを大きくもちながら進んで学習に取り組めるようにした。また「一人ずつALTに英語で伝える・説明する」という最終ゴールを設定することで、英語を使ったコミュニケーションを図らなければいけない状況や英語を学習していく必要性を生み出すようにした。



(2) 英語に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実現するための工夫（仮説3）

【学んだことを視覚的に捉え、自信に繋げる工夫】

児童が英語に対して抵抗を感じる1つの要因は、「言いたいことを英語で何と表すのかが分からない」ことであると考えた。そのため、学んだ単語の意味や使い方がいつでも確認できるように、黒板横にホワイトボードを設置し、新出単語や児童から質問があった単語を掲示し、「言葉の宝箱」とした。これによって単語のつづりや意味をいつでも確認することができ、安心して言語活動に取り組めるようにした。また、教室前方に常に掲示されていることで「これだけのことを学んだのだ」と知識が蓄積されていることが視覚的に分かり、児童の自信に繋がるよう工夫した。



【各授業導入時のシルエットクイズの設定】

外国語を使った活動に苦手意識をもつ児童が安心した雰囲気の中で授業がスタートできるようにするために、毎時間の導入時に児童みんなが知っている所属校の教師を題材としたシルエットクイズを行った。クイズのやりとりの中に、今回の単元で新しく学習する職業や人物の特徴に関する単語を多く取り入れたり、児童が最終的に発表する文型を例示したりすることで、「自分が尊敬または関心のある人物を ALT の先生に分かってもらう」というゴールの姿を、児童が楽しみながらイメージできるように工夫した。



2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 相手意識をもち主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○児童にとって関心のある人物を取り上げたことや、ALT に伝えるという最終ゴールを設定したことによって、関心のある人物を表す英単語を進んで調べたり、より伝わりやすい表現方法を教師に質問したりするなど、主体的に活動に取り組む児童の姿が多く見られた。

●単元終末で ALT に直接伝える場面では、恥ずかしさや、周囲の反応を気にする意識から、消極的な発表になってしまう児童もいた。この発表することへの抵抗感是他の教科でも同様にある。やはり、授業・学びのベースとして安心して発表できる空気感を醸成していくためには、外国語の時間だけではなく、全ての学習活動や学校生活の中で育んでいく必要がある。

(2) 英語に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実現するための工夫（仮説3）

○授業で学んだ英単語の蓄積が常に確認できるようになっていたことで、児童が困った時に言葉の宝箱を見て、表現に合った言葉を探し出し安心して言語活動に取り組むことができた。

○毎時間シルエットクイズを行ったことで、児童が楽しみながら導入時の英語のやり取りをすることができた。また、最終的に発表する際の言い方に何度も触れる機会があったことで、ALT に自信をもって伝えている児童の姿も見られた。

●今回行ったシルエットクイズのように、クイズやゲーム形式の活動を行うことは、児童が楽しみながら英語に親しむために有効であることが分かった。一方で、児童全員がよく知っている人物でないとクイズが成立しないことや、多様な職業について学ぶ単元であったのにも関わらず教師という職業しか提示できなかったことなどクイズを作る際の課題があった。